第 11 号　　～ サレジオ会宣教ニュース ～　　2009 年 11 月 11 日

ドン・ボスコが最初の宣教師たちに与えた勧告を読み直そう
皆が送る人、受ける人！

宣教師への勧告
2009 年 11 月　サレジオ会の宣教の意向

ドン・ボスコが最初の宣教師たちに与えた勧告を読み直そう！

宣教師の皆さん、
毎年、11 月 11 日は、1875 年の 11 月 11 日を思い起こさせます。私たちのニュースレターも、まさにこの理由から「カリエロ 11」と名付けられています。会憲の付録の、ドン・ボスコがジョヴァンニ・カリエロに与えた 20 の勧めは、私たちの父の宣教心から出たものです。サレジオの聖年に当たる今年の 11 月 11 日、12 月 18 日の修道誓願更新の数週間前に、これらの勧めを読んでみましょう。どこにいても、どんな仕事をしていても、私たちは若者の宣教師となるように召されています。宣教の十字架を受け、宣教地で働いているならなおさらこの勧告を注意深く読み、黙想しましょう。

　今日はバングラデシュから皆さんのことを思い出しています。フランシス・アレンチェリー神父の宣教地、ウトレイルでの私たちの最初の宣教拠点を訪問しています。ここは、2009 年に私たちが新たに拠点を築いた三つの国の一つです。

宣教顧問　ヴァツラフ・クレメンテ神父

第 140 回宣教師派遣で派遣されたサレジオ会員

氏名	管区	派遣先	氏名	管区	派遣先
P Adaikalaraja, John	INT	オランダ	P Martínez Martin, Santiago	SMA	キューバ
P Choi, Timothy	KOR	ﾊﾟﾌﾟｱ･ﾆｭｰｷﾞﾆｱ	S Maswili, Stephen Musya	AFE	ﾊﾟﾌﾟｱ･ﾆｭｰｷﾞﾆｱ
S Dang Dinh Minh Thang, James	VIE	ベネズエラ	L Matellán Carro, Antonio	SLE	赤道ギニア
P De Verchére, Xavier	FRB	チャド	S Mulet Lopez, Druhznier	ANT	アルゼンチン
P De Pablo, Juan Carlos	SBI	アルゼンチン	S Nguyen Manh Hien, Martin	VIE	ザンビア
L Doan Van Tan, John Baptist	VIE	ウガンダ	S Nguyen Quoc Bao, Vincent	VIE	パラグアイ
S Do Van Dung, Joseph	VIE	ベネズエラ	P Odrobinak, Anton	SLK	エクアドル
P Edamana, Cyril John	INK	英国	S Paluku Maneno, Moïse	AFC	ﾊﾟﾌﾟｱ･ﾆｭｰｷﾞﾆｱ
P Escobedo, Marcos Sergio	MEM	イタリア	P Perego, Davide	ILE	リトアニア
S Esteves Ramalho, Enio	ITM	エクアドル	P Praveen, Antony	INM	オーストリア
P Fekete, Vladimir	SLK	ｱｾﾞﾙﾊﾞｲｼﾞｬﾝ	S Raja, De Rossi	ITM	ハンガリー
S Guria, Paulus	ING	ウガンダ	S Somora, Stanislav	SLK	ケニア
P Idczak, Blazej Sebastian	PLN	オーストリア	S Tran Bao Thang, Paul	ViE	ペルー
S Muigai, Peter Kariuki	AFE	スーダン	P Vázquez, Francisco	SSE	ベニン
P Kociolek, Paweł	PLS	ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ	L Vu Van Khanh, Dominic	VIE	パラグアイ
D León Mendoza, Alejandro	VEN	中東	S Werun, Antonius	ITM	モンゴル
S Mari Arulappan, Jayaraj	INM	英国			

皆が送る人、受ける人！

第 140 回宣教師派遣のメンバー・リストに目を通すと、その多くがかつて「宣教地」とされていた国々の出身であることがわかります。ベネズエラ人が中東へ、一方、二人のベトナム人がベネズエラへ派遣されます。キューバ人がアルゼンチンへ、一方、スペイン人会員がキューバへ派遣され、スロバキア人がケニアへ送られる一方、二人のケニア人がスーダンとパプア・ニューギニアへ送られます。このサレジオ会員たちは、すでに人材が不足しがちな自分たちの管区にとどまったほうがいいのではないか、そのほうが司牧上より効果があるのではないかという疑問が生じても、不思議ではないでしょう。

この疑問への答えとして、初代教会を思い起こすとよいでしょう。当時、キリスト教の中心地はエルサレムで、周辺の諸民族は「異邦人」でした。しかし、中心地は次第にキリスト教ヨーロッパに移り、そのほかの世界が「異邦の国々」として宣教の対象になりました。このように、宣教活動は、「宣教地」に向かう一方通行の動きでした。また、第二バチカン公会議では、宣教が特定のグループの人々の活動だという考えを排除するために、公会議の教父たちは闘いました。こうして「教会憲章」で、教会は自らを、地上の隅々へと遣わされる、旅する神の民としてとらえました。私たちはこの光の下で、公会議の次の言葉を理解します。「旅する教会は、その性質上、宣教者である」（教会の宣教活動に関する教令 2）。また、「かつて創設されたが、今では退化または弱体化の状態にある」（教会の宣教活動に関する教令 19）諸教会について言及するとき、第二バチカン公会議がすでに「宣教」という言葉を用いたということも大切なことです。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、「交わり」という概念が「教会の自己理解の中心」にあると主張しました。こうして、宣教と交わりは、私たちが教会の神秘を正しく理解するために不可欠になります。宣教は単に「宣教地」に向かう動きにとどまらず、今や宣教は、さまざまな方向性のあるものです。現れているニーズに応えるために、キリスト者が人間的境界を越えるとき、宣教が始まります。同様に、すべてのサレジオ会管区は、人材や資金において豊かであっても貧しくても、会全体による宣教の取り組みに共同で責任を負っているのです。したがって、皆が送り出す側であり、また受け入れる側でもあるのです！　こうして今日、宣教師たちはアフリカ、アジア、南北アメリカ、ヨーロッパの出身でもありうるし、あるいはこれらの大陸に派遣されることもありえます。交わりの教会として宣教する教会の一員であるということは、皆が「受ける人」であると同時に「送る人」であるということなのです！

送る側であり、受ける側でもあるということということは、実際、お互いに豊かにされることです。多文化の教会、あるいは管区は、自らの心配事にとらわれずに広い視野をもち、移民、難民、疎外されている人々のニーズをよりよく理解し、今日のグローバル化した、多文化の社会で非常に必要とされる文化間の対話や関係を効果的に促進することができます。文化受容はもちろん不可欠ですが、私たちの共同体が単一的になるなら、管区や教会が自らの文化世界の中しか見えない、“閉鎖的な空間”になってしまう危険も生じます。そのため、すべての共同体が、ある程度、国際的な顔ぶれをもつことで、管区全体が豊かになります。そのことによって実際、文化受容も促進されます。なぜなら、地元の人は外国人にはない視点で自国の文化を見ることができますが、外国人も地元の人には見えない視点を提供することができるからです。こうして、サレジオ会宣教師の多方向に向かう動きは、会全体を豊かにするのです。一つの管区が貴重な人材を犠牲にすることは、結果として会全体を豊かにするからです。

アルフレッド・マラヴィラ SDB

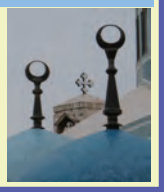
宣教師への勧告（1875 年 11 月 11 日）

1．金銭、名誉、地位ではなく、霊魂を求めなさい。
5．病人、児童、老人、貧者を特別に世話しなさい。そうすれば、神の祝福と人びとの好意が得られます。
9．怠惰と議論を避けなさい。飲食や休息において節度を守りなさい。
18．司祭職と修道生活への召命を培うため、⑴貞潔への愛、⑵貞潔に反する罪への嫌悪、⑶不良仲間を避けること、⑷ひんぱんな聖体拝領、の以上を教えなさい。そして、⑸親切と好意に満ちた愛をもって人々に接しなさい。
20．困難や苦労に出会うとき、天国に大きな報いが待っていることを思い出しなさい。－アーメン

2009 年 11 月　サレジオ会の宣教の意向

≪イスラム教国に暮らすサレジオ会員が、生活の証しを通して、多くの新しい、聖なるサレジオ会修道召命を育みますように≫

私たちは特に、インドネシア、パキスタン、スーダン、アゼルバイジャンなど、イスラム教徒が多数を占める地域にサレジオ会召命の賜物が与えられていることを神に感謝します。“異邦人”に囲まれた教会の中で、信仰と召命において成長し、宣教師として外に向かい、これらの環境で働くすばらしい若い使徒となりますように。



教皇の宣教の意向については www.sdb.org 参照。

問い合わせ・ご意見は、cagliero11@gmail.com　へ。